

スカシユリの二度切り栽培における球根養成法

高橋 寿一・橋本 信一

(岩手県園芸試験場高冷地開発センター)

Cultural Methods of the Bulb for Cutting Flower at Two Times on Asiatic Hybrid Lily

Toshiichi TAKAHASHI and Shinichi HASHIMOTO

(Highland Cool-zone Development Center, Iwate Horticultural Experiment Station)

1 はじめに

岩手県のスカシユリの切り花生産は秋出しの抑制作型を中心に産地が形成されているが、種苗費の軽減及びハウスの効率的利用を目的として、据置き季咲き作型と組み合わせた二度切りを実施している例がある。しかし、抑制作型の品種、栽培条件などにより季咲き作型の生産が不安定になる場合も見受けられる。そのため、二度切り栽培(抑制作型+季咲き作型)の一貫した生産技術体系が求められているので、品種ごとに、作型別球根サイズと品質の関係、抑制作型収穫後の切り下球根の肥大方法や季咲き作型後の球根の再利用法を検討した。

2 試験方法

- (1) 試験年次 1991~1993年
 - (2) 試験場所 岩手県葛巻町元木(標高540m)
 - (3) 供試品種 モントルーほか5品種
 - (4) 試験Ⅰ 二度切り栽培の球根サイズ、切り下茎長品種別球根サイズ、切り下茎長は表1参照
- [栽培概要]

1) 定植期: 1991年7月25日, 1992年7月23日, 1993年8月7日

2) 栽植様式: 床幅100cm, 通路80cm, 条間12cm, 株間12cm, 8条植え, 3,704株/a
(1992~'93年, エロージャイアント 条間, 株間15cm, 2,222株/a)

3) 施肥量 (kg/a): 抑制作型 窒素 1.4, リン酸 1.8, カリ 1.6

季咲き作型 窒素 0.7, リン酸 0.9, カリ 0.8

4) 栽培環境: 雨よけハウス ダイオネット遮光

(5) 試験Ⅱ 球根再利用法

球根養成期間	球根肥大処理
4ヵ月養成	切り下茎長の長さ 0 cm, 20 cm, 花蕾除去, 放任
1年養成	切り下茎長の長さ 0 cm

[栽培概要]

1) 定植期: 1992年7月25日(1年養成), 1993年7月22日(4ヵ月養成)

2) 栽培様式: 試験Ⅰに準ずる。

3) 施肥量 (kg/a): 4ヵ月養成 窒素 0.7, リ

表1 二度切り(抑制+季咲き)栽培の球根の大きさと切花品質(1991~'93)

品 種	抑 制 作 型			切り下茎長	季 咲 き 作 型			評 価
	球根サイズ (cm)	球 重 (g)	花蕾数 (花)		球 周 (cm)	球 重 (g)	花蕾数 (花)	
モンテローザ	10~12	18.0	2.5	5~7	8.8	10.0	2.8	○
エロージャイアント	12~14	30.5	4.4	5~7	9.4	15.0	4.0	◎
	10~12	25.0	5.5	5~7	9.7	18.0	5.9	◎
モントルー	16~18	74.5	5.6	5~7	15.4	48.0	8.7	◎
	14~16	52.5	5.4	5~7	13.5	31.0	8.7	◎
	12~14	31.0	7.2	8	10.7	21.0	6.1	◎
グランパラディソ	10~12	16.5	1.1	5~7	11.0	18.0	6.6	×
	12~14	27.8	4.9	0	8.9	10.8	販売可能率低い	
	12~14	—	4.0	3	12.8	36.0	7.8	◎
ポリアナ	12~14	37.0	5.6	5~7	10.0	21.0	4.0	◎
	12~14	34.0	5.0	7	11.8	30.0	7.5	◎
ローマ	12~14	30.0	8.3	5~7	11.8	29.0	2.6	○~◎
	14~16	43.0	7.4	16	11.9	23.0	5.0	◎

注. 評価: 二度切りの評価 ×; 品質不良 △; 品質やや不良 ○; 出荷可能 ◎; 品質良

ン酸 0.9, カリ 0.8

1年養成 窒素 1.4+0.7, リン酸 1.8+0.9, カリ 1.6+0.8, 堆肥 200kg

4) 栽培環境: 露地, 遮光なし

3 試験結果及び考察

(1) 二度切り栽培の球根サイズ, 切り下茎長

抑制作型の成立する球根サイズは花蕾数からみて, 「モンテローザ」, 「エロージャイアント」では10~12cm, 「モントルー」, 「グランパラディソ」, 「ポリアナ」, 「ローマ」では12~14cmであった。また, 抑制作型が成立した株を収穫時に切り下茎長で5~7cm程度残すことにより, 季咲き作型に必要な球根サイズが確保され, 切り花品質も良好となった。季咲き作型の成立する球根サイズは, 「モンテローザ」, 「エロージャイアント」では8~10cm, 「モントルー」, 「ポリアナ」, 「ローマ」では10~12cmであった。「グランパラディソ」を供試した場合でも, 切り下茎長を残さないと,

季咲き作型の球根サイズは8~10cmに留まり, 販売可能性が低くなったのに対して, 切り下茎長を3cm程度残すことで季咲き作型の品質は良好となった。また, 抑制作型の成立しない10~12cmの球根サイズでも, 切り下茎長を5~7cm程度残すことにより季咲き作型の品質は良好であった(表1)。

(2) 球根再利用のための養成期間, 球根肥大法

季咲き作型収穫後の7月22日に露地に植えかえ定植し, 4カ月程度養成することで, 季咲き作型に利用できる切り下球根が得られた。その場合, 季咲き収穫時に切り下茎長を20cm程度残すことで球の肥大が向上した(表2)。

また, 季咲き作型収穫後の7月25日に植えかえ定植し, 切り下茎長を残さないで収穫しても1年間養成することにより, 季咲き作型のほか, 「モンテローザ」, 「エロージャイアント」では抑制作型に利用可能なサイズの球根が得られた(表3)。

表2 季咲き後の切り下球根処理と露地4カ月養成後の球の肥大

球根肥大処理		ローマ		作型対応性		エロージャイアント		作型対応性	
		球周 (cm)	球重 (g)	抑制	季咲き	球周 (cm)	球重 (g)	抑制	季咲き
切り下茎長	0cm	9.7	16			7.9	9.4		
"	20cm	11.6	24		○	9.7	15.4		○
花蕾除去		12.6	30	○	○	9.3	12.9		○
放任		10.5	20			8.8	11.8		

注. 1993年7月22日に植えかえ定植→1993年11月18日調査

表3 季咲き後における切り下球根の露地1年間養成後の球の肥大

品 種	生育(1993年7月22日)				球根の大きさ		作型対応性	
	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (cm)	花蕾数 (花)	球周 (cm)	球重 (g)	抑制	季咲き
モンテローザ	102.1	95	0.7	5.0	13.0	32	○	○
エロージャイアント	50.8	42	0.6	1.8	12.7	34	○	○
モントルー	61.4	71	0.7	2.1	12.2	25		○
グランパラディソ	79.4	65	0.8	3.5	11.5	27		○

注. 1992年7月25日植えかえ定植→1993年8月7日球根の大きさ調査
放任栽培

4 ま と め

(1) 抑制作型が成り立つ球根サイズは, 「モンテローザ」, 「エロージャイアント」では10~12cm, 季咲き作型では8~10cmであった。

同様に「モントルー」, 「グランパラディソ」, 「ポリアナ」, 「ローマ」では, それぞれ12~14cm, 10~12cmとなった。

(2) 抑制作型において切り下茎長を5~7cm程度残して

収穫すると, 切り下球の肥大が良好となり, 上記の季咲き作型の球根サイズを確保できる。

(3) 季咲き後の切り下球を露地圃場に植えかえ定植して, 4カ月養成することにより, 再度季咲き栽培に利用できる球根が得られる。その場合切り下茎長20cmで球肥大が向上する。また, 1年間の養成で抑制作型にも利用できるサイズの球根が得られる。